

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2006年6月)

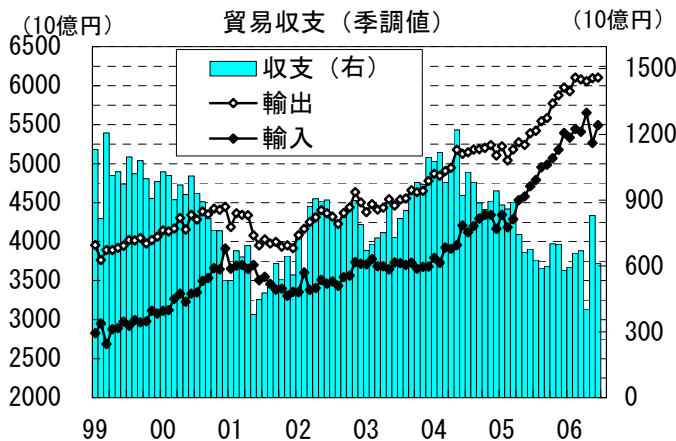
発表日2006年7月26日(水)

～貿易黒字額は2ヵ月ぶりに減少～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525



(出所: 貿易統計・財務省)

(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸出	輸入	貿易収支
05年6月	677	5390	4713	858
7月	628	5420	4793	862
8月	591	5546	4955	103
9月	599	5585	4986	949
10月	702	5771	5069	818
11月	699	5877	5178	594
12月	581	5975	5394	908
06年1月	595	5929	5335	-354
2月	659	6104	5444	947
3月	670	6080	5410	968
4月	403	6055	5652	650
5月	830	6097	5267	383
6月	612	6106	5494	808

(出所: 貿易統計・財務省)

前年比	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
05年6月	3.6	3.0	0.5	2.4	▲8.9	▲0.6	11.4	9.2	2.0	0.9	▲2.3	6.0
7月	4.3	5.1	▲0.8	▲1.1	▲3.1	▲4.5	11.9	12.6	▲0.6	7.5	▲4.8	▲1.2
8月	9.1	6.7	2.2	3.1	▲2.1	1.3	21.5	11.4	9.1	9.2	6.6	12.5
9月	8.8	7.4	1.4	3.5	▲3.3	▲2.9	17.6	13.3	3.9	5.0	4.8	3.7
10月	8.0	5.5	2.4	3.8	▲1.7	▲1.4	17.9	15.3	2.3	▲13.9	0.5	7.3
11月	14.7	7.6	6.6	4.7	▲0.7	4.3	16.7	19.3	▲2.1	▲2.3	▲1.0	0.3
12月	17.5	10.6	6.2	6.4	▲1.9	3.4	27.4	24.8	2.1	10.8	▲1.2	3.8
06年1月	13.5	5.6	7.5	12.2	4.4	▲1.1	27.0	18.7	6.9	2.6	0.2	10.0
2月	20.7	5.3	14.6	8.5	1.6	15.9	30.3	23.7	5.4	6.9	5.7	3.9
3月	18.0	6.2	11.1	8.0	5.7	12.1	25.3	20.3	4.2	▲7.0	0.6	8.0
4月	11.3	4.7	6.3	8.7	▲0.2	6.7	20.2	14.7	4.8	▲15.2	▲2.1	11.2
5月	18.9	6.6	11.6	15.1	8.1	15.2	18.0	13.0	4.4	5.4	2.8	9.1
6月	14.4	5.4	8.6	2.5	9.2	8.0	18.2	13.4	4.3	▲0.4	▲3.9	9.5

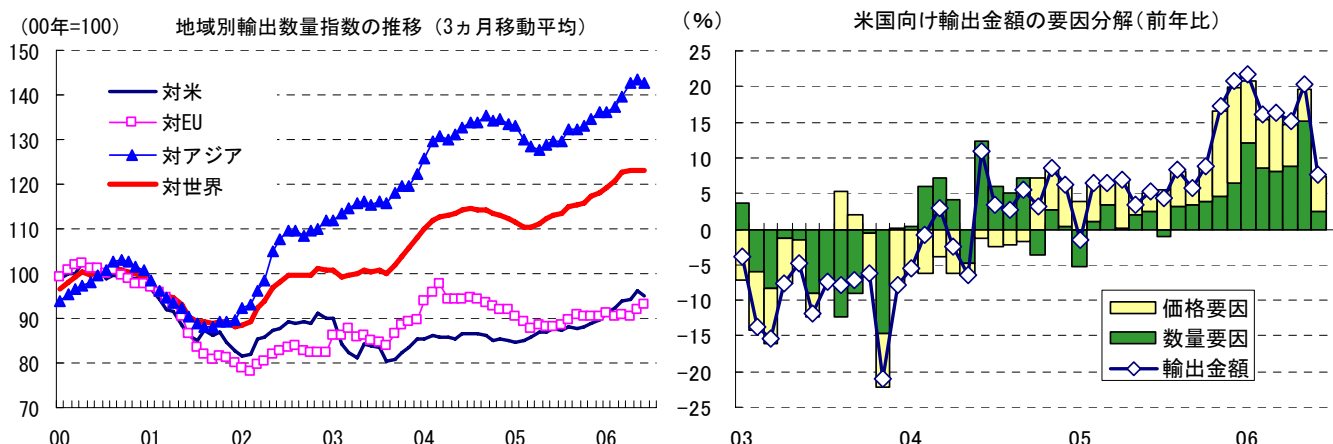
○ 6月の貿易黒字額は前年比▲5.9%と2ヵ月ぶりに減少

6月の貿易収支は8,079億円(原数値)、前年比▲5.9%と2ヵ月ぶりに減少となった。原油価格が引き続き高水準で推移していることから輸入金額は前年比+18.2%(前月同+18.0%)と前月並みの高い伸びとなった一方、輸出金額の伸びは前年比+14.4%(前月同+18.9%)と伸びが鈍化したことから貿易黒字額は再び前年を下回った。

○ 輸出数量は米国向けなどが減速し、伸びが鈍化

輸出を数量ベースで見ると、前年比+8.6%(前月同+11.6%)と伸び率が鈍化した。地域別にみると、米国向け(同+2.5%←前月同+15.1%)、アジア向け(同+8.0%←前月同+15.2%)、欧州向け(同+9.2%←前月同+8.1%)となった。とりわけ目を引いたのは、米国向け輸出が数量ベースで伸びが大きく鈍化したことである。米国経済は減速の兆候がみられているが、6月の輸出数量の伸びの鈍化がこの影響によるものなのかは判断しにくい。財別に見れば6月も対米の自動車輸出は好調であり、日本の自動車の競争

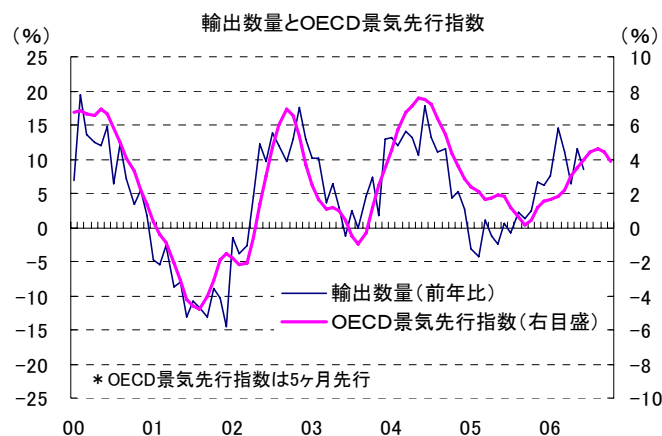
力は高いことから同製品を中心に輸出が大きく崩れることはないと考えられるものの、モメンタムは下向きとなる公算が大きいことから米国向けの輸出動向は今後も注視していく必要があるだろう。また、アジア向けについては非鉄金属やプラスチックといった素材関連が引き続き増加していること、中国向けでは一般機械の輸出も堅調に推移した。EU向けについては、自動車輸出の好調が押し上げに寄与したほか、船舶輸出も増加している。総じて輸出は堅調に推移していると判断できるが、輸出数量指数（当社で季節調整済み）ではこのところ横ばい圏内の動きとなっており、少なくとも輸出が加速する状況ではなくなってきた。



○ 先行きの貿易収支は米国経済の減速ペースおよび原油価格に左右される

米国経済は家計部門において減速感がみられている。輸出に先行するOECD景気先行指数や米国ISM製造業新規受注が減速してきていることなども勘案すると輸出も増加ペースが鈍ってくると思われる。ただし、その米国経済の減速は小幅にとどまる見込みであり、輸出が大幅に落ち込むことは回避できると考えられる。輸出は増加テンポが鈍化すると考えられるものの、先行きも底堅く推移しよう。一方、輸入に関しても緩やかながらも拡大傾向が続く可能性が高い。雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の回復や成長期待の改善を背景とした設備投資の増加などの国内需要の回復により、輸入も増加傾向を辿ると判断する。

貿易収支に関しては、当面は一進一退の状況を見込む。上述のように米国経済の減速に伴って輸出金額は増加テンポが幾分鈍化してくるとみられる一方、輸入金額も原油価格がさらに上昇していかなければ、価格面の押し上げ寄与は徐々に剥落してくると考えられる。もっとも、原油価格については6月後半以降に一段と上昇するなど、今後一本調子に輸入金額の伸びが低下してくることも見込みがたい。原油価格動向に振られやすい動きとなることには留意が必要である。



○ 4-6月期の外需寄与度は前期比+0.0%と横ばい

4-6月期のGDPベースの実質輸出入を試算すると、外需寄与度は0.0%ポイントと横ばいとなった。輸入の伸びは前期から鈍化するものの、輸出の伸びも鈍化する公算が大きいことからGDPに対する寄与はほぼ横ばいとなる。設備投資についてはそれなりのプラスとなることが見込まれるが、個人消費は天候不順から前期から減速する可能性が高いこと、公共投資もマイナスとなる見込みであることを踏まえれば、4-6月期のGDP成長率は1-3月期から減速する可能性もある。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。